無難禪師法語

全

188.84
M917m
W

無難禪師眞蹟

異本

假名法語

毛道士靈寶授籙法

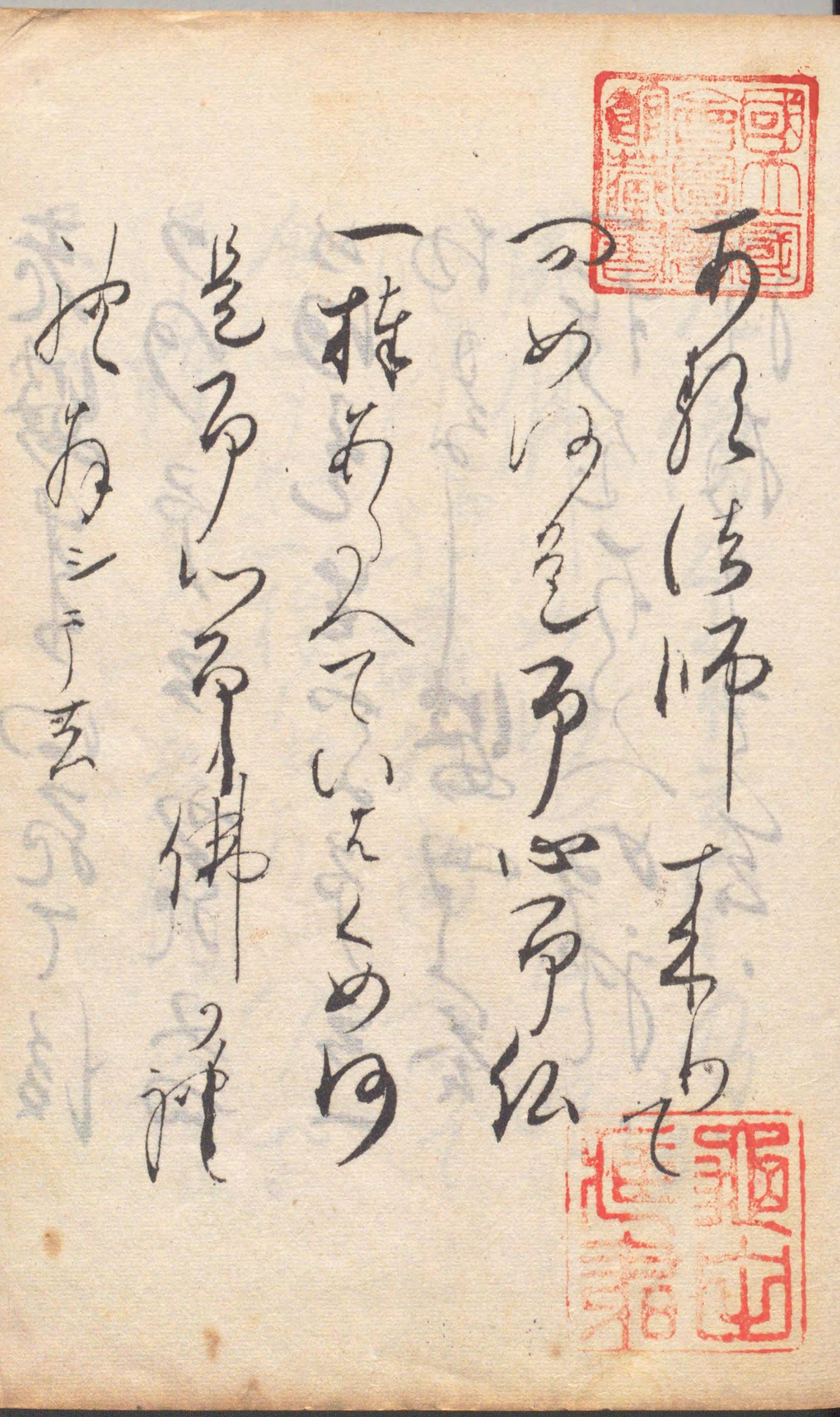
壽康堂
壽康堂

188.80
M917m

臨濟宗妙心寺派管長　豐田毒湛老師題簽

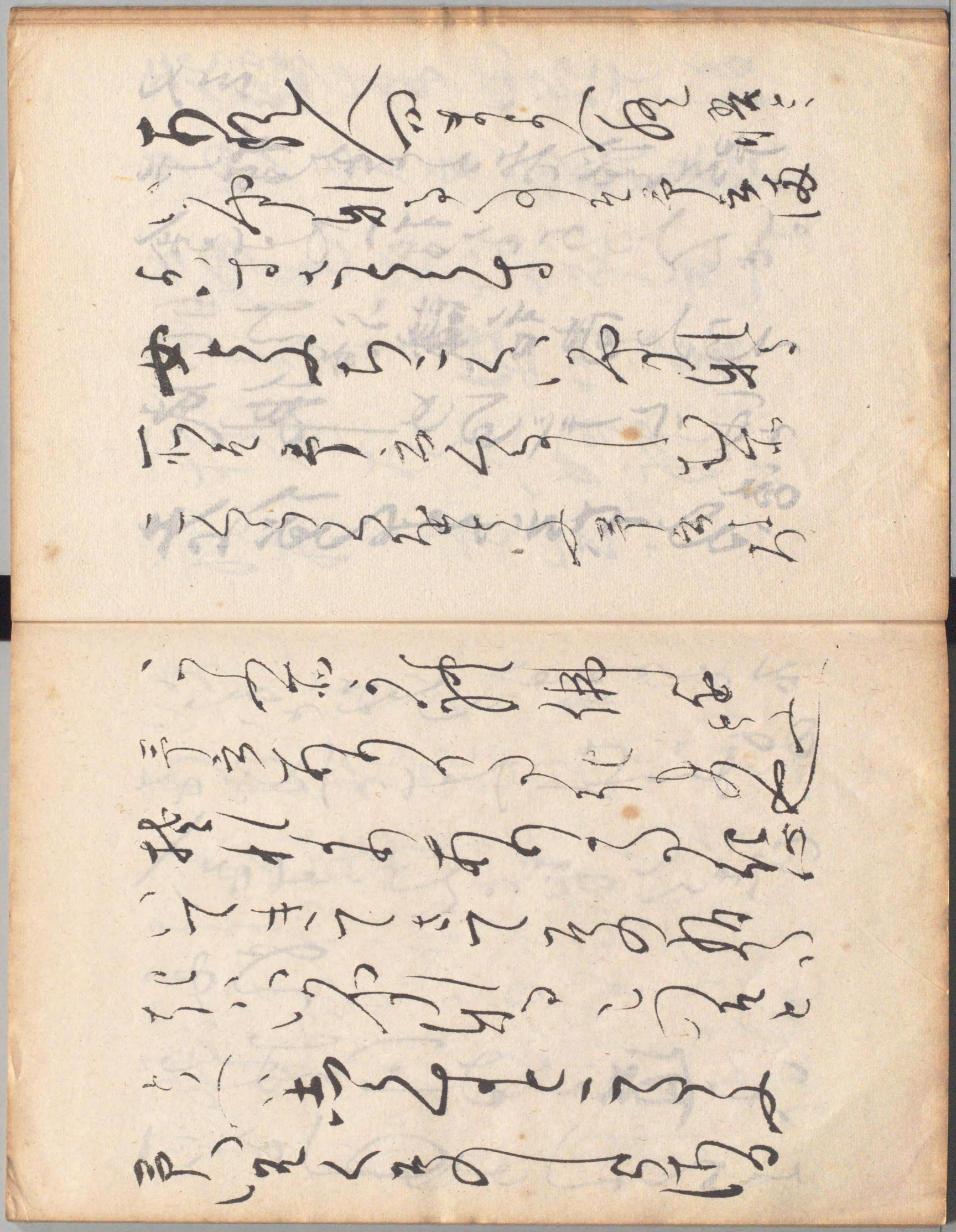
国立国会
26.9.10
図書館

245228



老婆事四百餘年
ノ間ノ戸ニ立死又四
ノ間ノ色ニ生ル事ニ
ハ如ル西門春
一持ヲ有ル人ハ如神
ノ如ク云

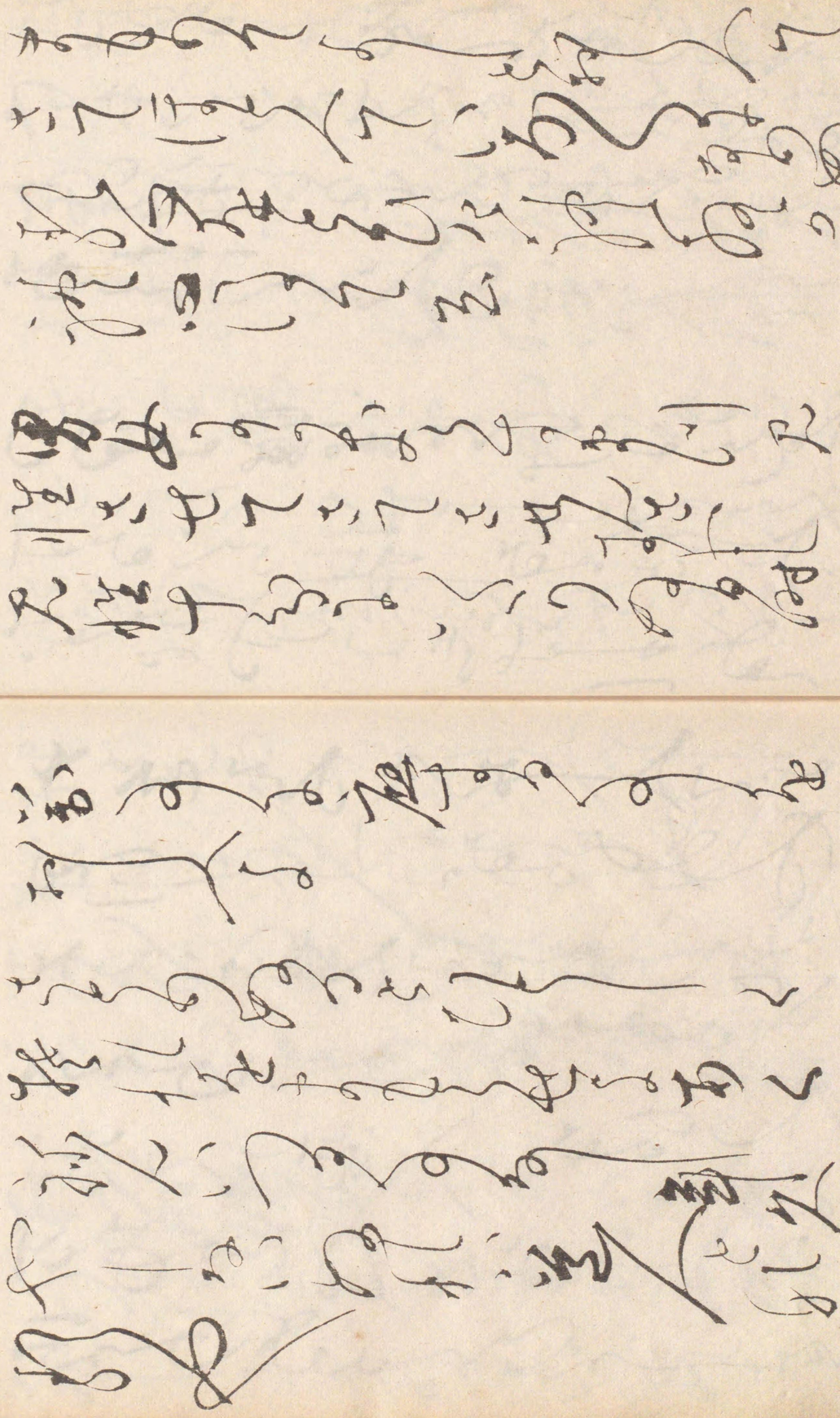
老僧事ニ立ル所ノ
成佛ノ間ノ法ヲ
ハ如ル春日ノ示識和尚ノ
令ル事ハ一持ヲ有ル人
ノ戸持ヲ有ル老僧ニ
又云



而を
う神仏の道
あれ
人をすくんとせ
を求一とす
いかとなりの
なりとも不
信をくゝめて
あれたたすけ
よいとせまし
ましや御の
しとなり
神ゝなるとい
おしてゝいた
仏とく

いはゆる有の
つゆとなる所の
五智の法身佛と
なる所の心も
きを佛とやなる
をこゝろすなわち
とゝ(て)まことは
なれ(ば)よ志すれば
するゝ佛なるを
つゝ生とけるなり
あれつゝの心さえ
もの佛をとゝまる
するいらさせん
なるを

245228



ほうのあまちひとしく
万物をやとおもしへめぐみ
いたつら露へはなかりつ
さとりいのをとまもる
みなさせんなよわつにし
罰しうつみすつもの
大道をやくおしへてよ

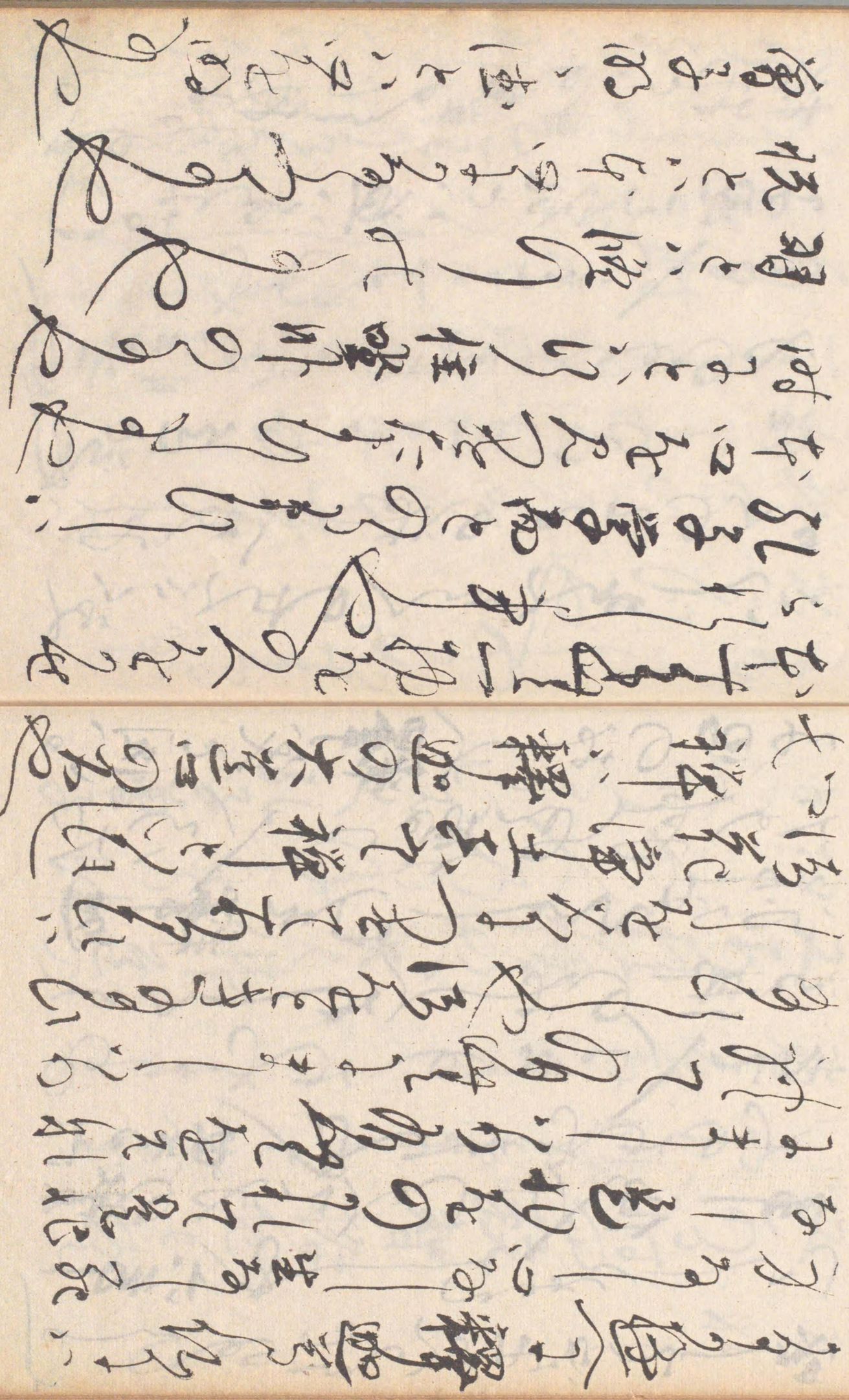
ことえやくやなし
ちじとみのよりのにあ
まことのみちも
よく口はそおしへ
よあやまくのなつれ
あり附傳をつよふき命い
いつれをきとさすそ主命い
くおしのつのあるといへあれこと

天竺

又ある時四致智拾四とあ
いかゞなる事をとゝへとし
ゐ答な

又ある僧のいはく佛道の
おしへ乃ちはいかゞ
といへり答いはく孔子曾子

子思のおしへ釋氏と同い。
なるゆへに僧問ていはく
祖師をこゝ
当佛のおしへ
きてゝ云ふ
人のちやまりの
年仙人つゝ世尊六
つゝしまりや六年
坐して四年



格物といはるゝ
子思之氣といはる
こゝろ人心とは
方のうちに
性しるべし
かくのごとく
さしきんくの
ゆゑなり
必ずしもとゝ
我宗のこゝろを
をもてわかる
するなり
有時みるまゝ
ものをもてきて
いまゝて是程
さらにいまだ

み
其の神より有ることをしられて
世に住の人もなす仏と尊む
又
うき世のをとこにも結ぶと
まかせ今あふさりて
あるへくまんさこの世たとえきぬの
その神のえもいのり給へと
併祖なとこみともくいなわれ

くみなまゐり
世をいとふ人の今そのまゝひとの神
りやまひをのいやまし文
かしらふるのと北の方へ
りちつく神してね祈し
つよいとこゆくみやし
あきつ神わかてしのちは
仰みなまゐるてもその御えもん

うしなひてあり
なんとて
ぐつとまでいふのつきて
はんりをあれはなし
ものもいはぬ
ものもいふ
とものもいふ
をかしいとも
いとをかしきさま
いかるれわれ
うれしかりける
うれしかりける
まちまちひろ
うちゐ人れ世事
事人信師なんと記
つまりしかるもの
事一分をすつるをも
とすをのつまひきせ
しりをそるぬ

血氣をしつてうなり
為ものもちつかうなり
為ものゝ知やうなり
しらされは　しをして
法師ぶしやう

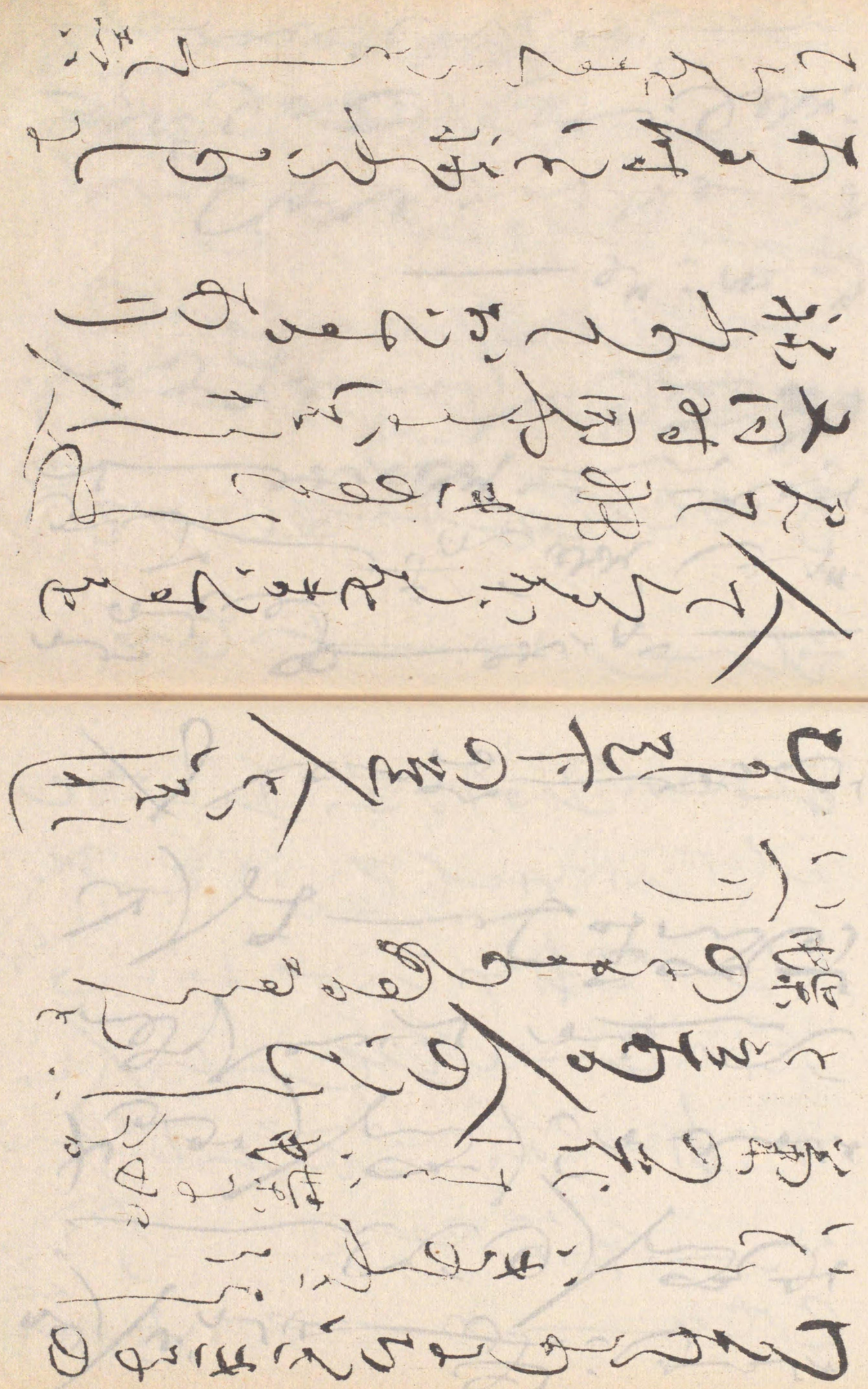
いまゝて法花と佛法
をもつくるとゆへなり

ほうしなるこゝろ自のう
ちゝはしりて強
ものゝ身をかりすなり
しかるに外のとうなる
釋氏のとうなる　ゆへを
ちがいめるこゝろなり
ゆへ師しや

ゆへなきゝ天竺ゆ

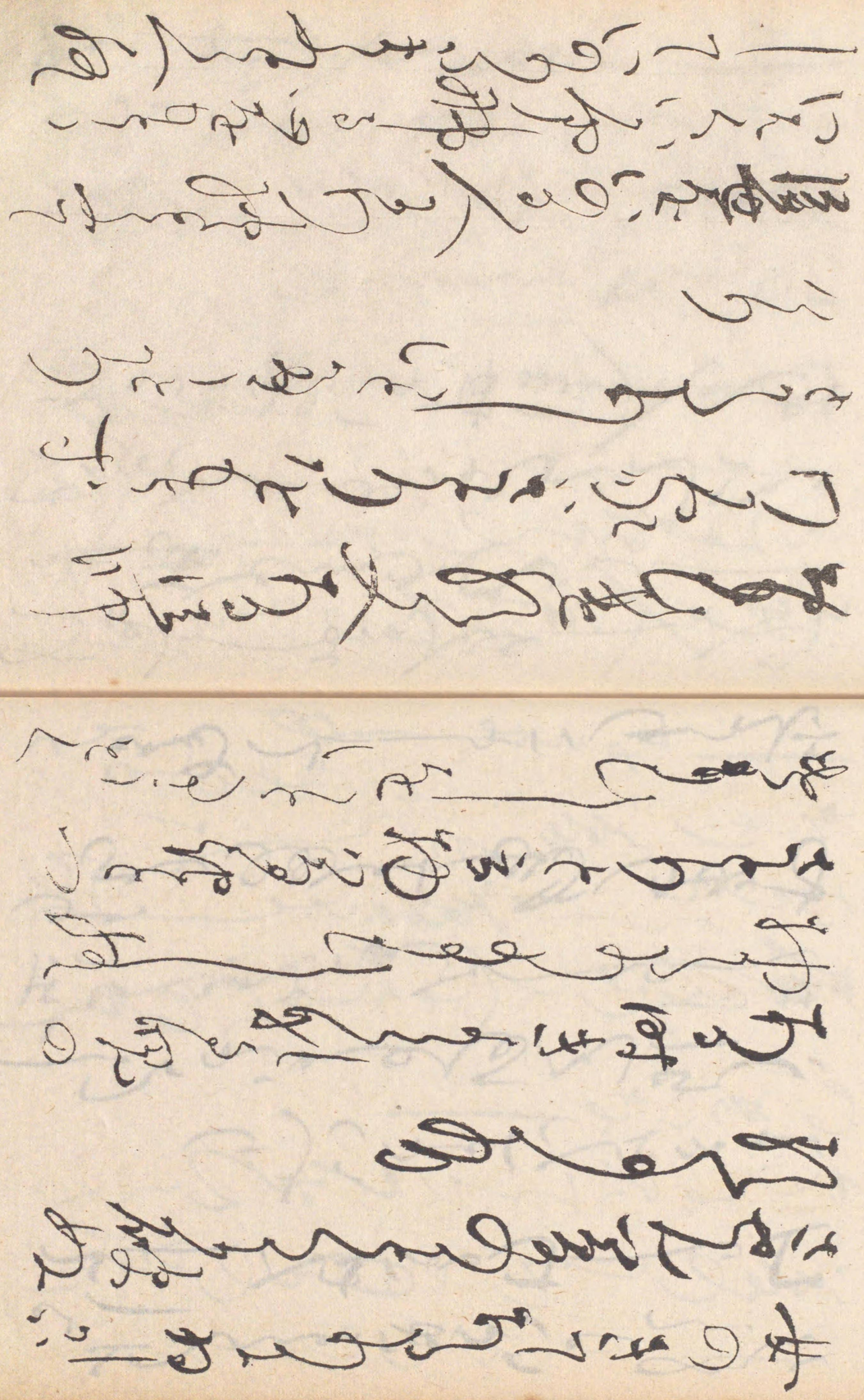
の有りさまを持すれば世を捨て世を捨てなく明らかなれば世をいとへばこそ人のさまを人の世をとるなれば

有りさまは世をいとへとてさまとかへの有りさまを言ふ歟



しやのしんのやうなし
ござのうちは日々のせんり
ちよくてつかうをひくき
ぬきいる し
屏風の人はさうれねて
なのちしはござてやのして
きりございとわしみわらち
しをさやむしめのつとと

少そりこしてねる
やあり帰するのちり
しらしらきおかさ出
う引つてゆすのとえして
まさせんすといへり
山のしりのきせんして
少しいとまき引ける



[illegible]

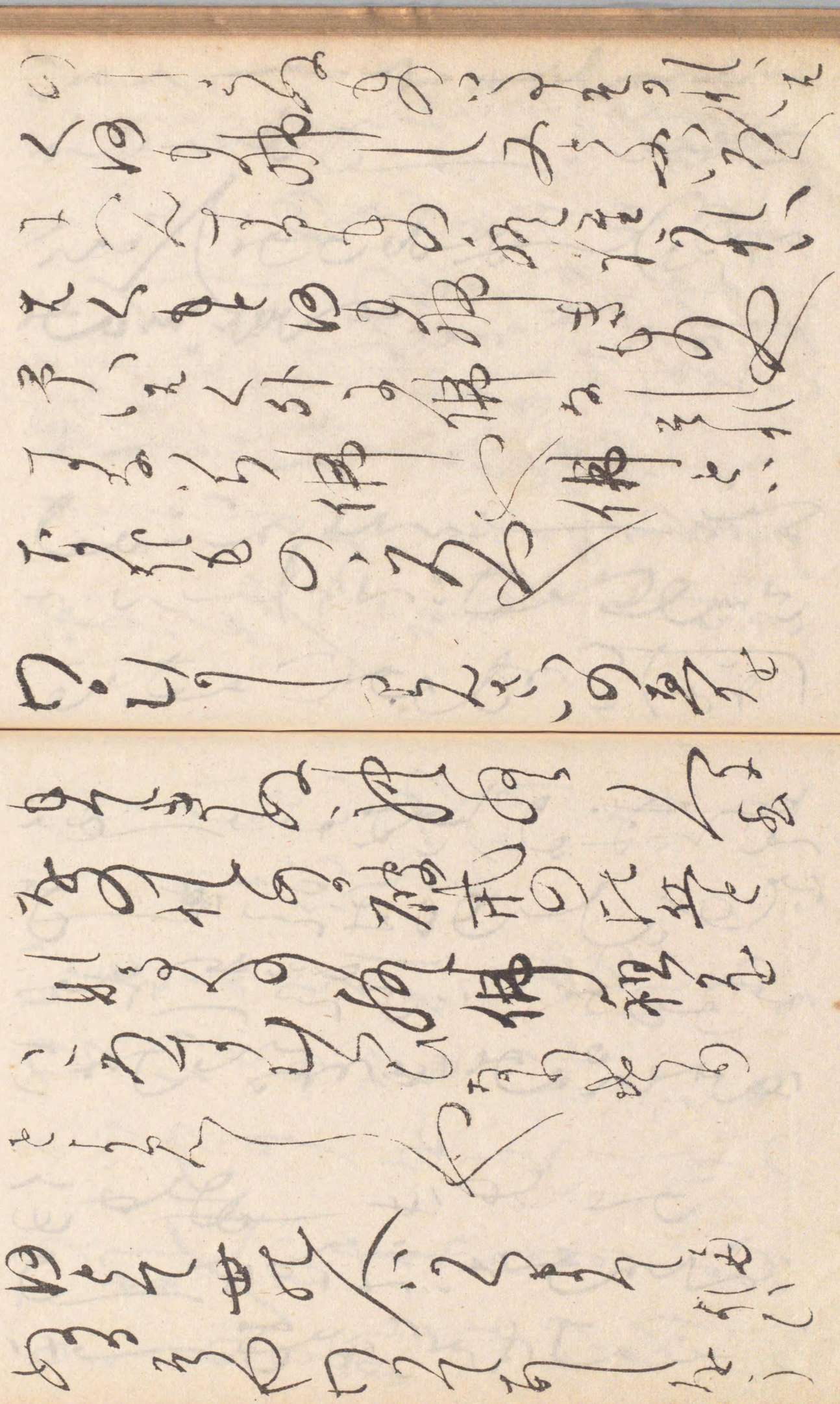
[illegible]

[illegible]

[illegible]

しりさんとゝよ郷へ
ていえくゆもおいてゆるえ
とゝりよりをてゆりみを
りをまてゆまれこゝをえも
らきつくつらるる
いしゝまとゝのちゝは
ゆるゆるゝとき

ゆのゆりゆるゆるゆるやといえな
とこゝろさていけるものをろ
ゆるいとゝそゝいたひ
きれいれるつく
ゆるえ寒れゝとも
ゆゝ　ゆりゆ
ゆのゆゝゆゝ　ゆゝ
いえくしゝゝ

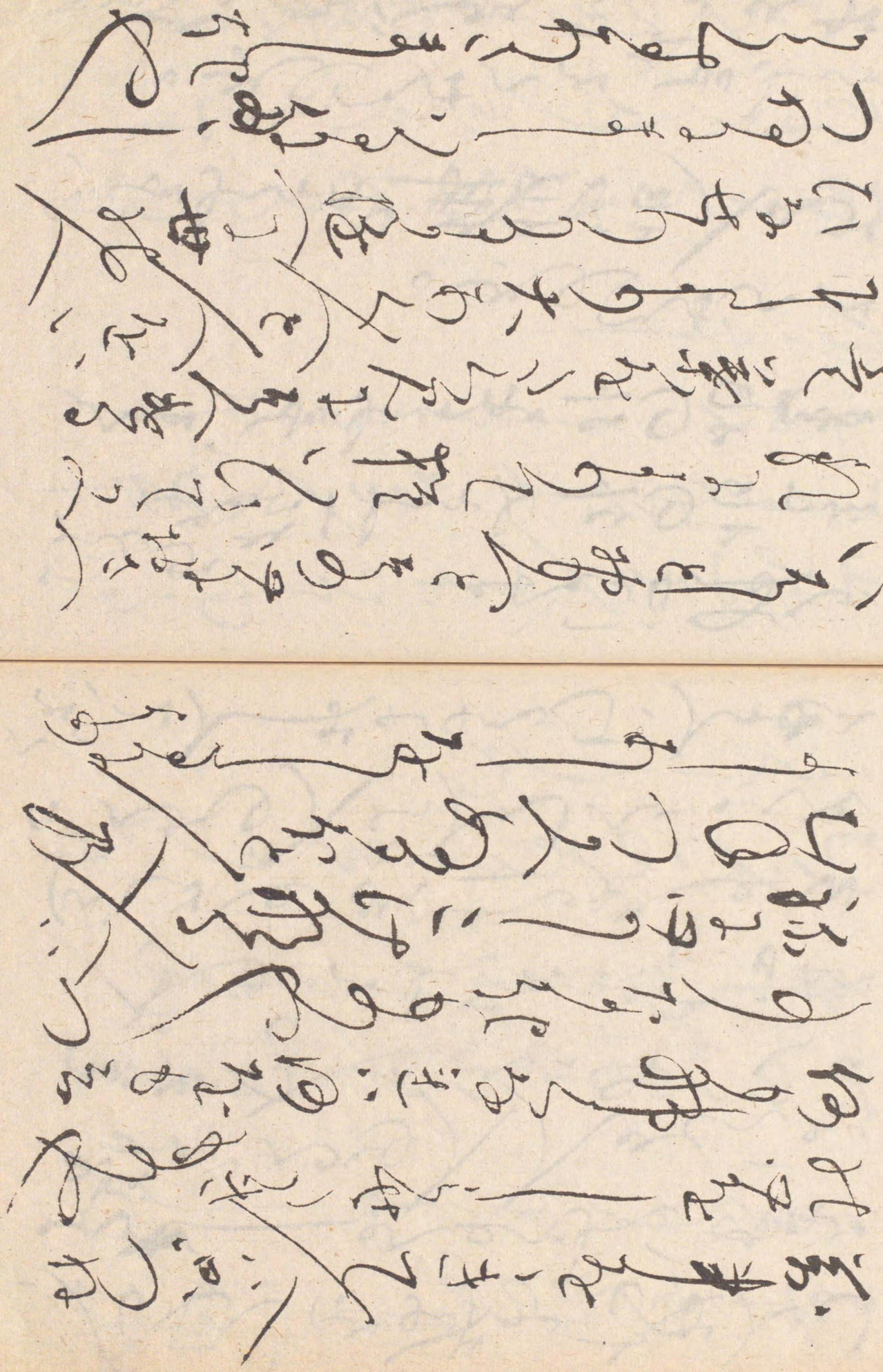


こゝはいとせまくて
物をとゝのへたる
様もなし
いとうたてあるに
ものをかけるに
やはをかけたる
ものゝうへにおし
ますをとゝ
りはらひて
いときよらなる
ねてゐたるおもて
とゝのへたる
ものをとりて
ひろげ
ますをとり
ひろげて

いまくやもろもの
ろもろのまうえるを
りしかの分をおしえて
ひろのよ廣すると云
いまくしりめ
晦りする人第一分乃
業をしらと云ふ
しりめ
晦りにいたる分をしらと
云ふ
しりめ
三下の恩をしさ云
佛を拜へくよ
いまくしりめ

[illegible]
と云りけれ
時のいるといふ
事いまゝしけ
ひらけのうと云
くしりる

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



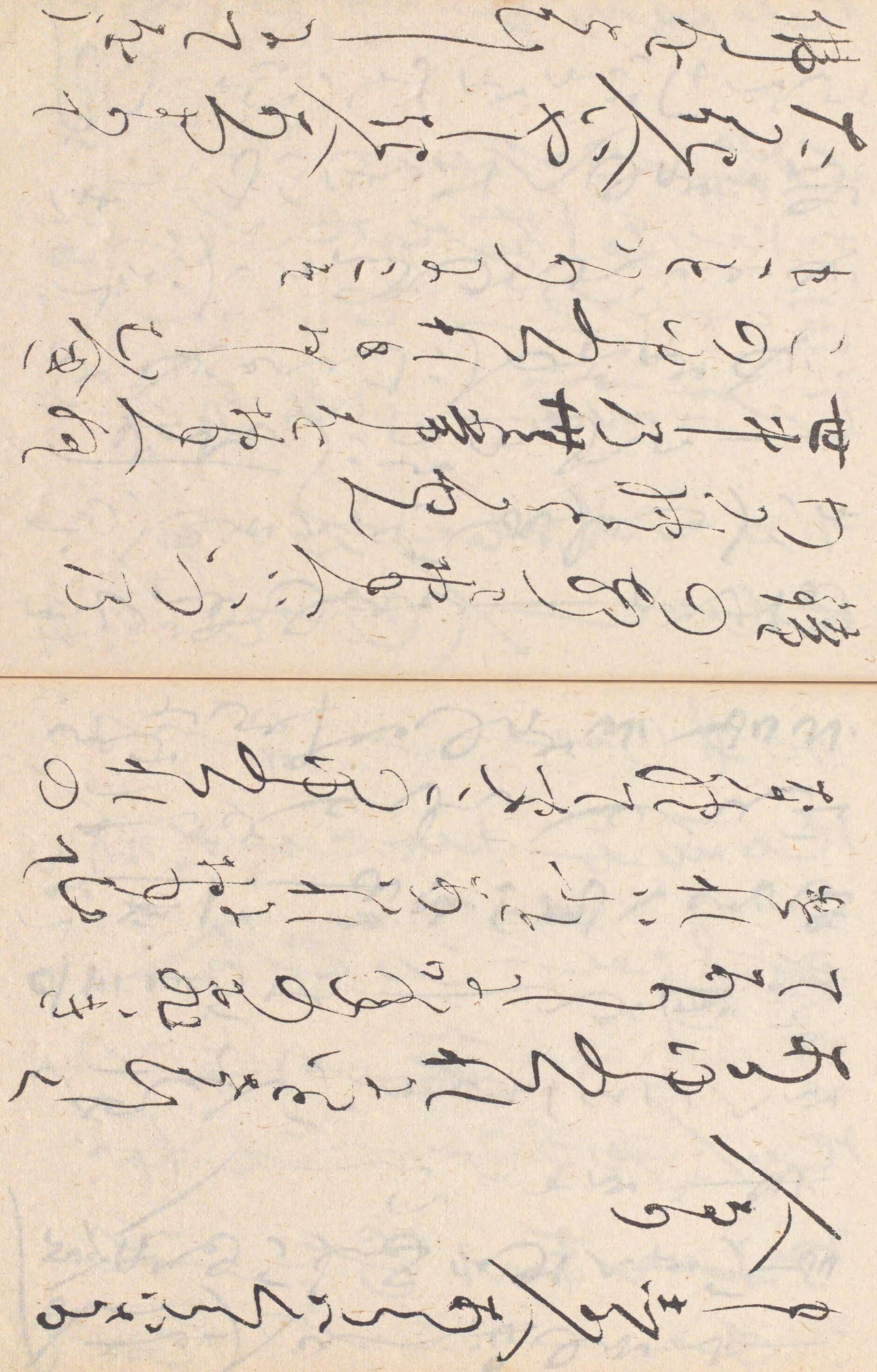
ある法師の
ものの戸にてくせもの
ありけるを
とらへてこの
ものかの
是北の外をふる戸にてく
是北の外又一作
うゑ神ふる

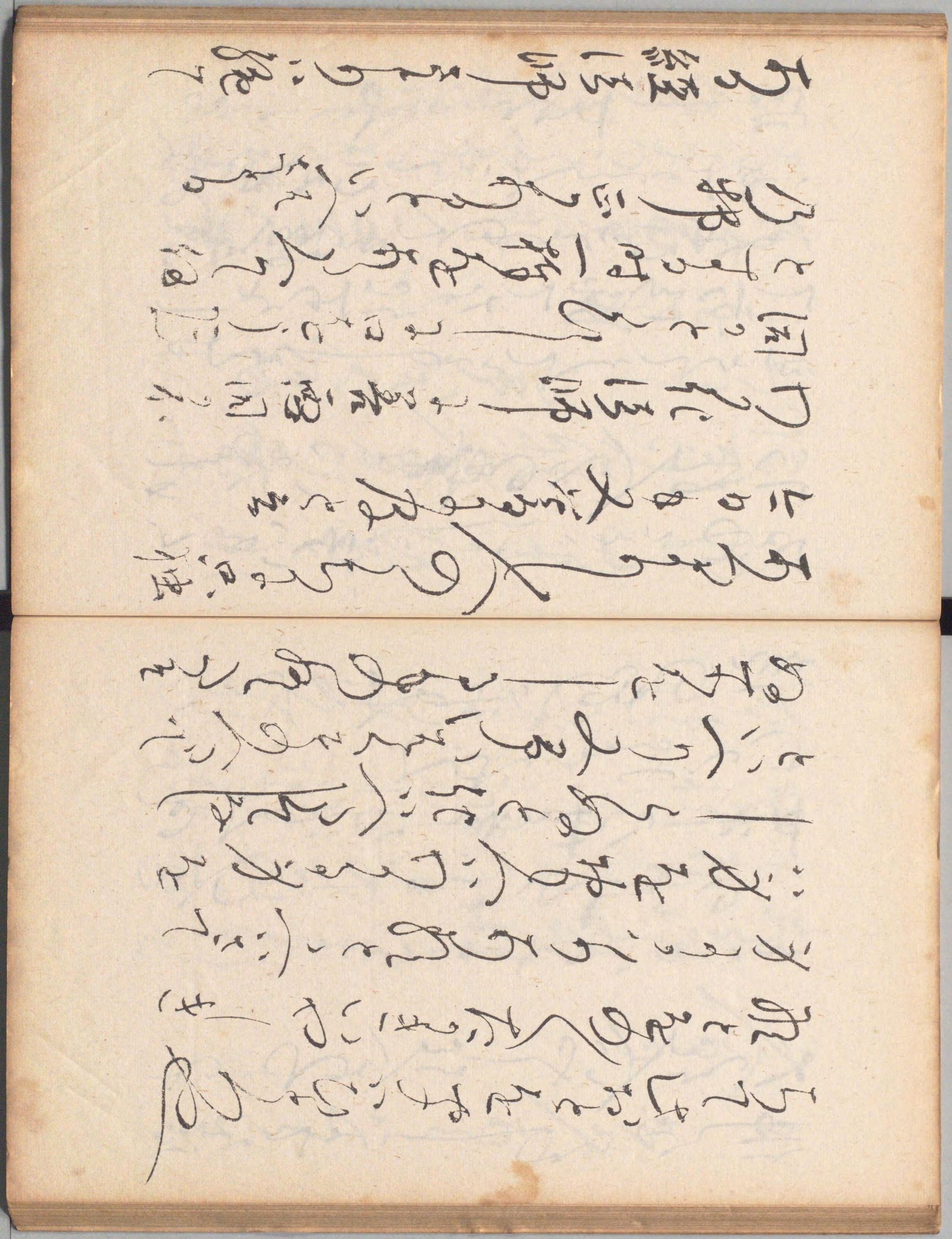
山ゐのそゆるり
ものをかくして世界
をつくりて言ひけり
ぬるかな

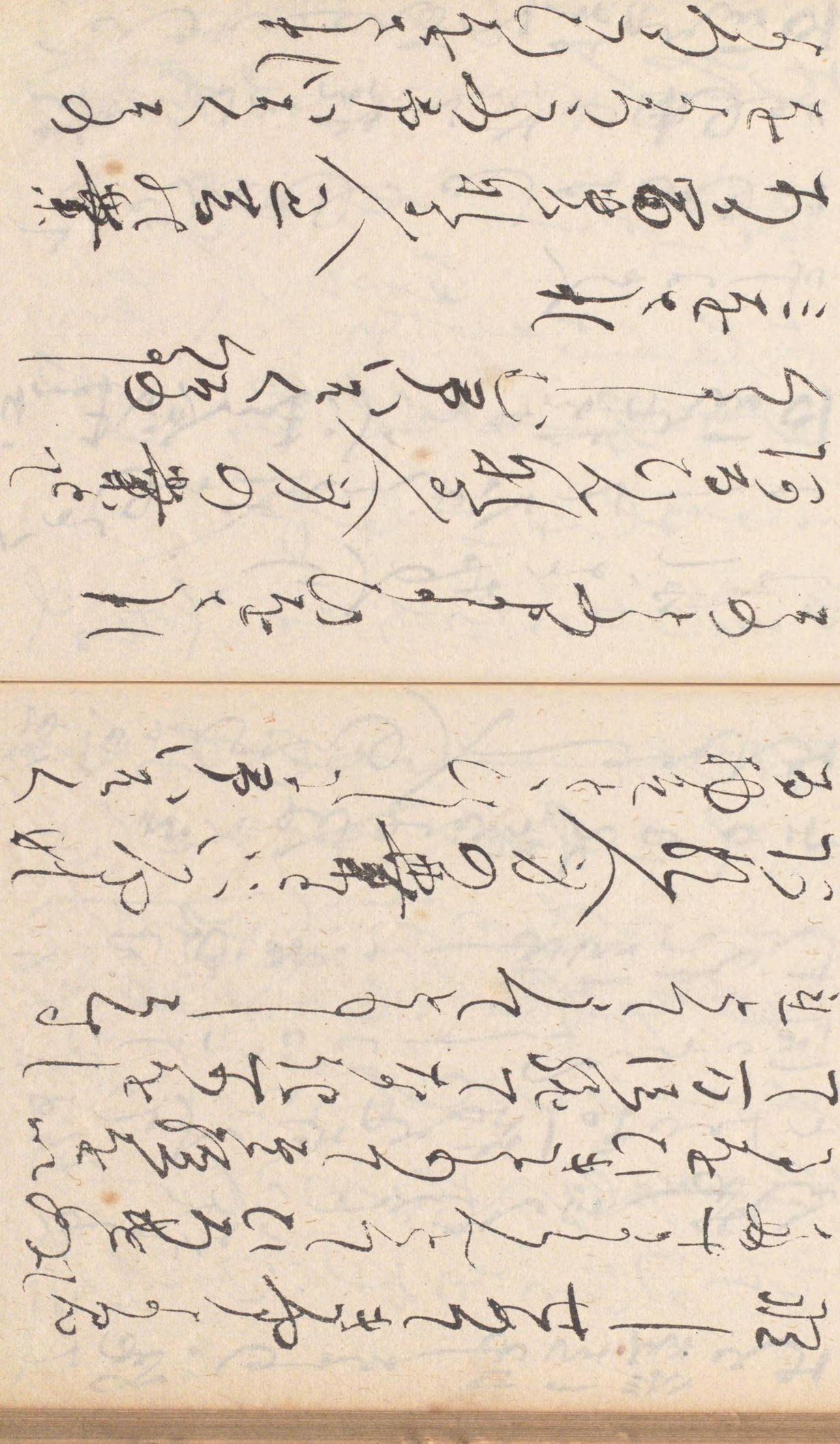
ある法師ゆゑなり
ひきすりたるもの
ニかくの
のるをなりわるい

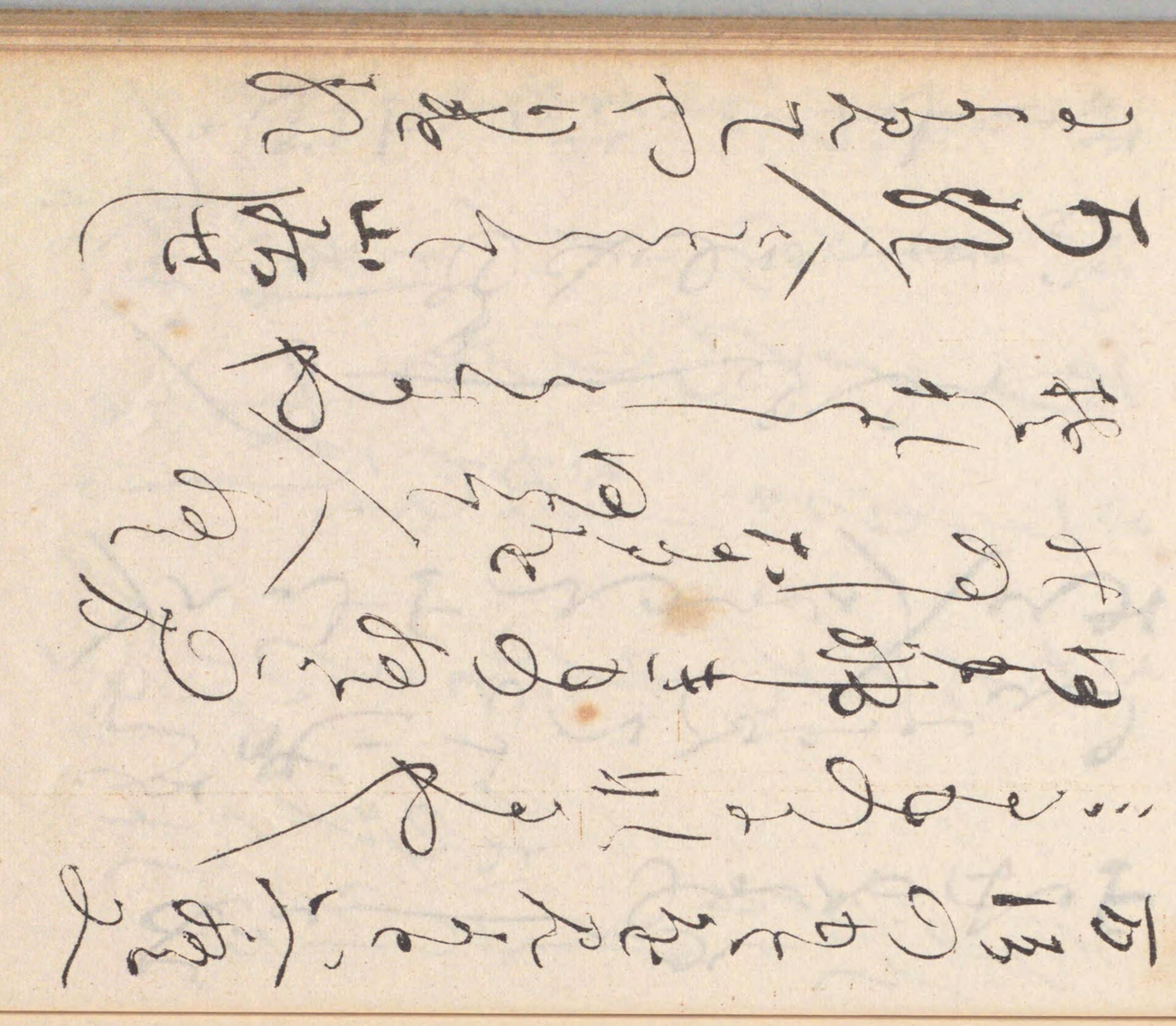
いふものしあるといひしき
なす事無一ゆるさず
ある人男女のまじはりをとひ
しかいはく佛道はきらふ
男女いましむるゆへ
ある法師来りて大笑
男女のまじはりはよさゝうなと

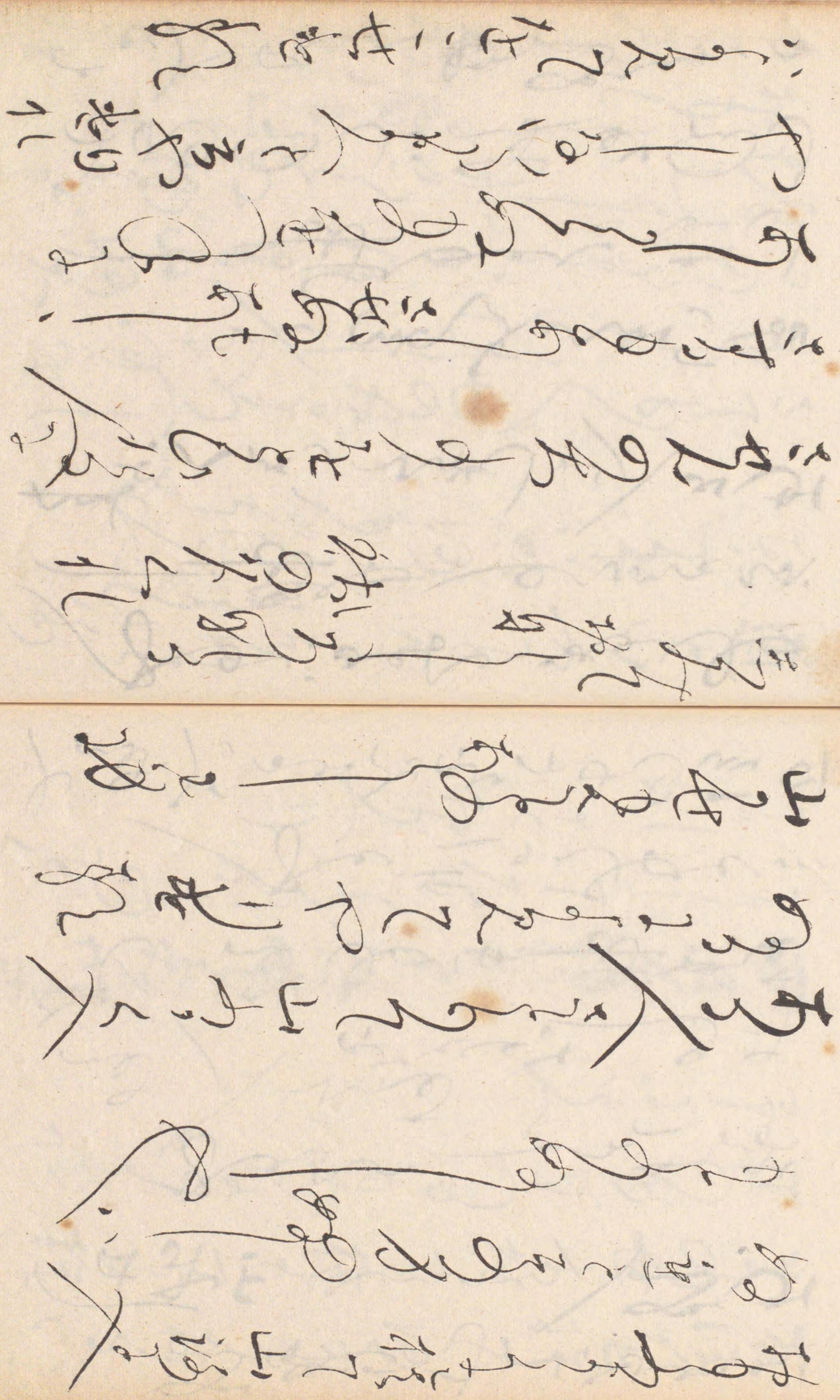
云ふ事云なとのみちよあろ
けりけりいふけりなれ
妙喜ノ寳山法師ハ一関にて
精道ありしはいま三百
そくこさするといふ人ありしを
来そとへし人
師いはくあさゆふいの生食
してその味しる人まれなり

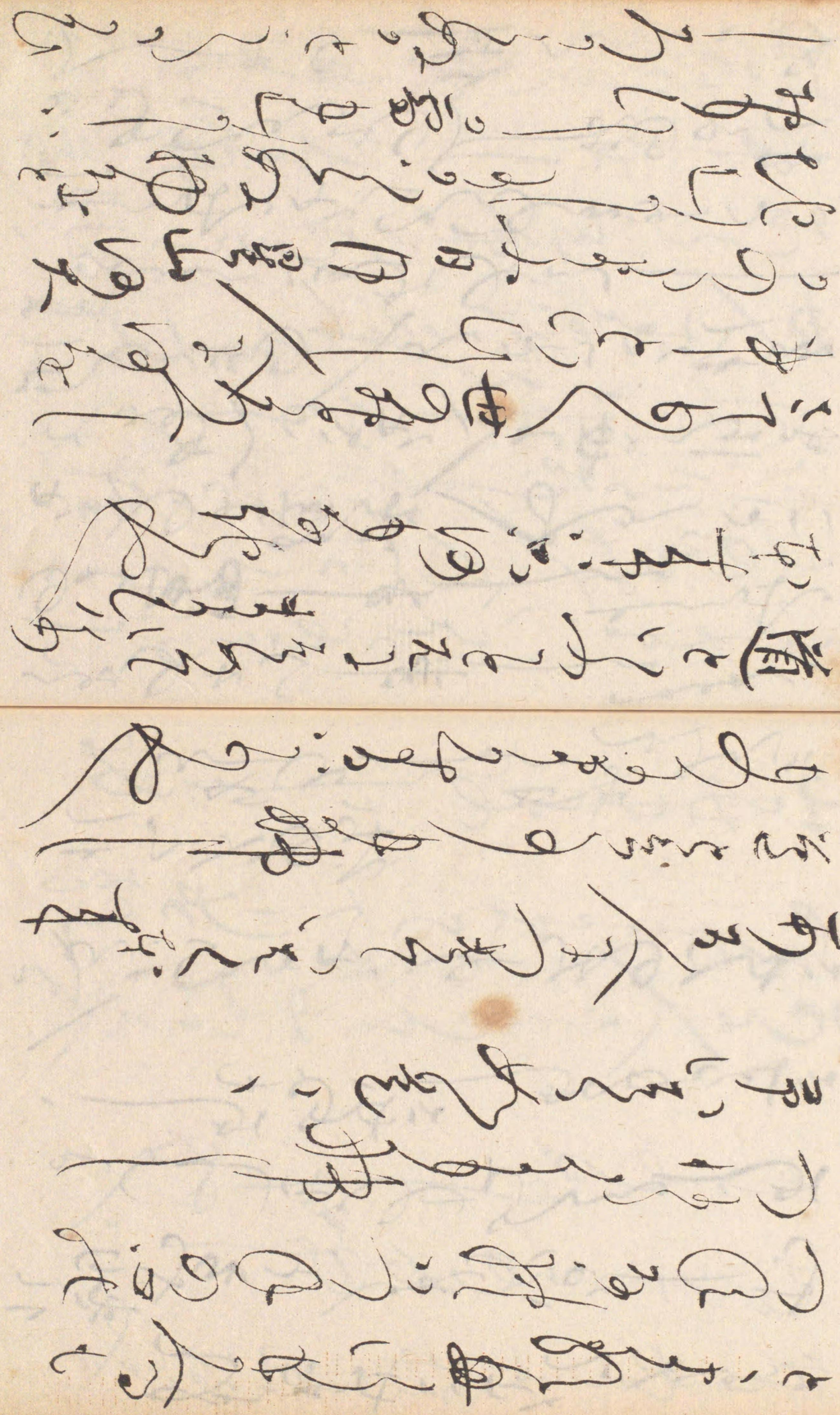






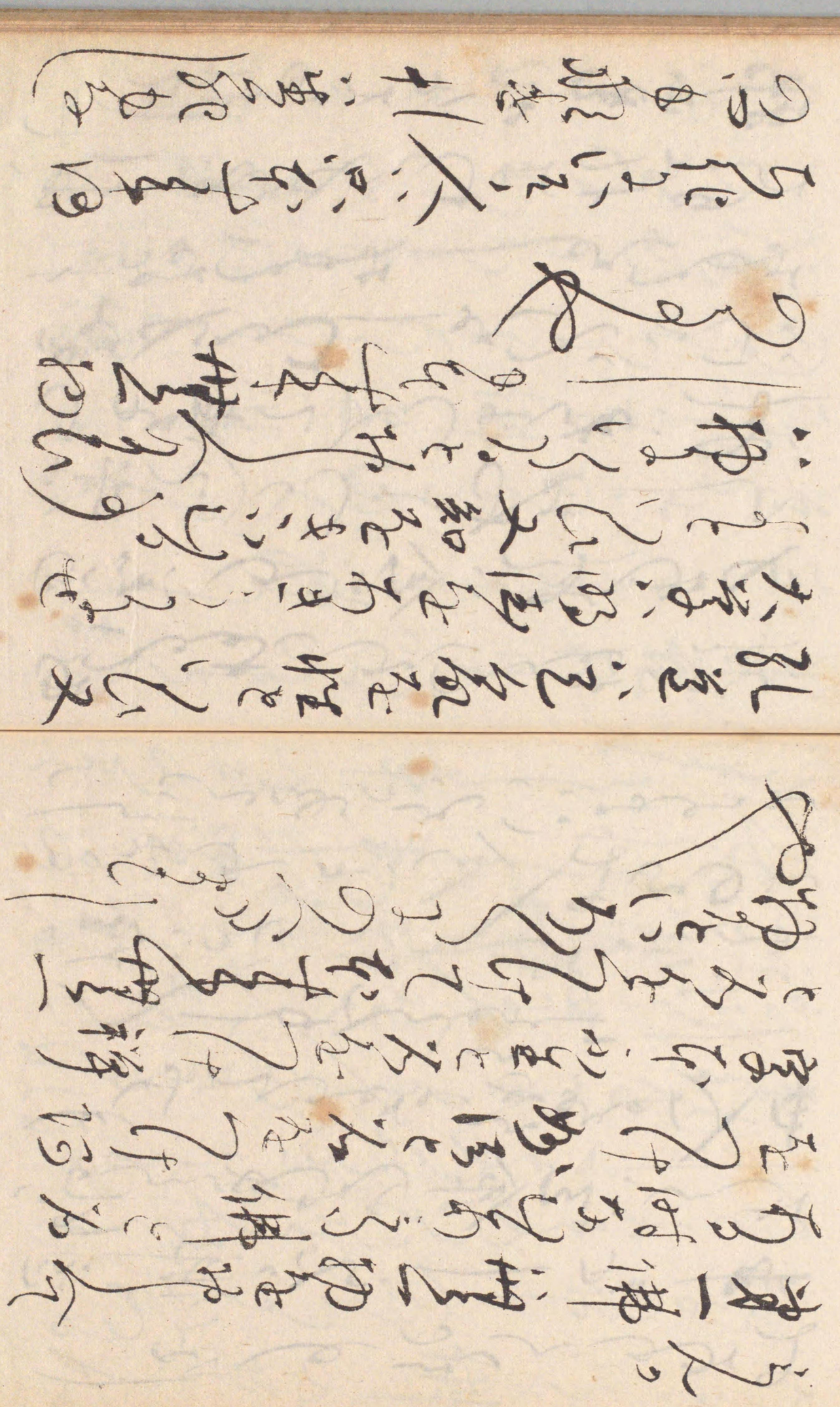






めるとく佛の御
弘願のおしへのうちにあ
ることのうたがいをなしと
ことのうたがいをなしと
ことのうたがいをなしと
きはは
をしりぬ世人のまうさるは
ことのうたがいをさしへめるも
なをはなはだしかるべし
ふまうさるは四生の
ふまうさるのそのゆく

よよまいりあつまりて
よのうちの人乃
ひとりとしてうたがふこと
なかれとなり
しかるに世人
する物なりてすす
むるいとの命の
事をしり
ぬるなり佛の
をしへ



邪正是非をたゞして
たゞしかるべきものをしれば
なほしかるべきものをしれば
いつくしみなる心ばせを
神にまつりて忠をつ
くしつゝて孝
行の義あり今の世
神にまつりてあり
おろかなるこゝろあ
さまを思ひしい
なりて佛道を
のこりなくして儒
に傳のこりて佛を
わるものとなし
事

さとるべからず

いまをあらそふ人
ありはてぬ世を憂き乃
ほのかなる
ものを世の中
しらぬ人をぞ
此一生ワつゆ
うくあり
よそあらん人
いとくゝ
ものゝ
ミあり
る人
こゝを
世我の我を
ゝとも

しいてやすくしらるゝより
やのふしをあらへる
ましありけれ
今人はいま才一尺ほどをさせて
させんしてつとめさせよ
つとむるまていてあし

つねしるくのうるかい
ねし

寛文六丙年弥生月日

至道菴主

字仙よみとる

ある法師來りて問、如何是即心即佛、一棒あたへていはく、如何是即心即佛、かれ禮拜シテ去。

老婆來問、死て後如何、予云不死、又問、如何是生處、予云一物もなし、婆無答、一棒をあたへぬれば禮拜して去。

老僧來云、本有圓成佛、如何シテ今汝となる、答不識、和尚かへつて會すや、一棒をあたへんとす、予棒をとる、老僧去、予又去。

ある人問、まよへば悟とはいかやうなる事ぞ、予云まよはず、さとらず。

女とふ、ちごく、いかやうなる所ぞ、予云くるしむ所、ごくらくをとふ、予云よろこぶ所、かれ佛をとふ、予云ありがたきもの也、それよりありがたき心いできて、さてその有がたきはいかやうなるものぞととへば、しらずとこたふ、予いはく、そのしらざる所をつねにつとめよ、かれつゐに道にいたる。

人をすゝめんとおもはゞじひを第一とすべし、むかふものいかほどおろかなりとも不便をくはへておしへよ。

ある老尼來りてとふ、よはひ七十におよびて、いまにや佛のむかへたまはんとおもへども、いまだ命ながらへぬるといへるに、おしへていはく、佛といふはほかにあらず、そのほうつねにとなふるねんぶつ也、南無阿彌陀佛ととなへぬれば、何の心もなきを佛と申也、かならずをこたらずしてねんぶつとなへて有がたくて何心もなきやうにしすれば、すなはち佛なりとおしへける、つゐに往生とげにける也。

あるわらはべの心さかしきもの佛をとひけるまま、すなはちざぜんさすれば、何の心もなし、それをつねにまもりてよしとおしへて、さてほどへていろ〳〵になりぬる心をとひければ、かれ心得て去。

男女にかぎらず、まづ見性させてさてざぜんさすべし、見性十分にいたりぬる時、萬事に應ずる事をおしへよ。

さとりぬるとひとしく、それをまもらせよ、あくねんいづる事なし、年久やしないぬれば道人となる也。

さとりぬるとひとしく萬物是也とおしへぬれば、大かた惡人になるもの也、さとりばかりをまもる人、大かたざぜんにとりつきて、りつしうになるもの也、大道はやくおしへてよきとはやくおしへてあしきと、その人による也、よく〳〵心得ておしへよ、あやまる事なかれ。

ある時儒者にとふ、天命はいづれを天とさすぞ、主命はたしかにあるといへばことばなし。

又ある時問、致智格物とは、いかやうなる事ぞと〻へども、返答なし。

又ある儒のいはく、佛道のおしへは人のたねをたつといへり、予いはく、孔子曾子子思のおしへ、釋氏と同、いかなれば儒には人のたねをくるしむぞ、釋迦尊佛のおしへ、あしくうけて人に云事あやまりの人のあやまり也、世尊六年仙人につかへて身の業つくしたまひし也、六年坐して心をみがき玉ひし也、かるがゆへに釋迦尊佛には、身なし心なし生なし死なし、是非をのがれて是非にまじはり、有無をはなれて有無にまじはり玉ひし也、法をとき玉ひしを名につけて、あるひは法華淨土眞言禪といひし也、禪は釋迦の大道心の名也、本來無一物をのべをかせられし事也。

孔子學而とのたまひしは本心を見つけたまひし事也、時にとは行住坐臥の事也
習とは修行の事也、悅とは本心にかなふ事也、曾子明々德とは心を明事也、格物
とは何もなき物になる事也、子思天命とは魚は水にすむごとく人は天にすむ也、
身のなかに天あるを性と云也、性しだいにするを道と云也、かくのごとくのおし
へなれば、さいしけんぞくのせんさく更になし、しやか如來と、もとはひとつ也。

我宗のこんげん本來をきはめてわが身をただしくする事也。

ある時だるまをもてきて物をかけといひしに、
いかにして是程うそをつきぬらん
さりとてはなきさとりなりしを。

又

をのれめにあたらまよひをさまされて
世に住かひもなき身とぞなる。

又

うつしゑのをこたらでとく法聲を
聞人あらばだるましう也。

ある人りんざいの𢘅をもてきぬるに、
をのれめがはかひのびくとなることは
佛祖をころすむくひなりけり。

だるまに、

是をだに見る人ごとのまよひかな
かゝずばもとのだるまなるべし。

かしらかぶろのときよりあたりちかく物してなれし心に、いとかはゆくおもひしを、かれあまへて、のち法師になりても、その心えなんうしなはでありしを見てかくのごとくにてはめうがにつきなん事をあはれにおもひしりぞく、わが心にあらねども、のちのかれがむくひをおもひ返してけり、かれもいとくるしげにてさる。

かりそめのわかれだにうき身なりけり
まよひのうちは人の世中。

ある人、法師ならんとゝひしにつまびらかにかたりてけり、第一身をすつる事をもととす、をのが心におもひきらせむため也、肉をくらはざるは血氣をしづめんため也、魚鳥もとよりわが友也、魚鳥にわがおや兄弟なりしもしらざれば也、

此三を以て法師はいむ也。

いかにしてこれほど佛法すたりぬらん、つくづくとおもふにほかにあらず、みな身のうちよりやまひとなりて、終その身をほろぼす事たしか也、外のとがにあらず、釋氏のとが也、みな道にちがひぬる故也、ことはりかな、本師しやか如來天竺國のあるじとして國を捨、さいしを捨玉ひし也、今は世に捨られてせんかたなく、かしらおろして人にへつらひ世をはたる、すがたをかへ、わざをかへぬるばかり也、心にもとむる所は、むかしよりあさましき事也。

ある時むかしの人のいひしことゝて、まよへばさとるといへる人あり、又ある人のいひしは、さとりはなきと云人有。

わがあたりにちいさき子のいひしは、きのふさきし菊の花、けさは蝶に成たると云、ある人のいひしは蝶のとまりぬるならんといへり。

むかし天下の道人といはれし人、てくるぼうをまはすを見て、なき玉ひし也、又同時同やうにいはれし人、ねぶりておはするあり。

ある時いとねぶたかりしにひぢをまくらとして、しばしまどろめるに、夢のうちに月日の光り家にみてり、めをひらきぬればなし。

屏風のうへにさるのゐてなきしに、夢さましてけり、夢いとおもしろかりしをさましぬることよと、ひとりごとしてゐる。

やぶりぶすまのうちよりかしらしろきおきな出て、うなづく、何事かはととひしに、ざぜんすといへり。

むかしわがざぜんしてけるに、いときよらなる女のきて、あたりにゐしかば、ざぜん夢のごとくに破ぬる事有。

ある時きよらなる兒の物かたり玉ひしは、さとりと云物はなきとつげ玉ひしを、いとたうとくおもひける、又ある法師わが家はさとりをもととすとかたりし、いとたうとかりけり。

後世をいのる人にわれとふていはく、いかやうなる心をもとゝして、いのりたまふとゝへば、しらず、ある人、佛に成といへるによりてとなんいへり、われおしへていはく、しらずば、いのらぬがまさんか。

ある人、後世をいかやうにねがひつとめなばよからんとゝひしに、なむあみだ

佛とねんじ玉へとおしへける。

又ある人、生れぬさきをしらず、死てのちもしれまじきといひし人有、われとふていはく、つねの心はいかんと〳〵ひしに、いろ〳〵にのぞむ事あれどもかなはぬといへり、予いはく、もしかなひなば、いかばかりうれしかりなんと〳〵ひしに、さなんといふ、予おしへていはく、何もおもはでゐたまへといひしにつけて、何もおもはぬ行をすとて、まなこをみひらきつよくつとめぬるよしいひしが、まことにのちにはおもはぬ人になりしとき、何かねがひありやといへば、なしとこたふ、さてはねがひのみちぬるはいとめでたしといひければ、かれうなづく。

ある眞實なるとひごとしける人あり、予おしへていはく、そのとふぬしはたぞ、かれいはく、しらず、予又とふ、そのしらぬものはたぞ、かれいはく、何もなし、又とふ、いろ〳〵にへんずるものは誰、かれいはく、もと何もなきもの也、予いはく、外に佛なし、それすなはち佛也、佛とはなきもの〻名也。

わがむかしりんざいのゐをもてきぬれば、うへに書、

をのれめが破戒の比丘となる事は

佛祖をころすむくひなりけり。

とよみし也。

何とて世の人はかくまでまよひぬるぞや、わがてあしをうごかし、物をいはせわが身のぬしを見れば、さりとては何もなきものなり。

いとわかきとき、あるかたちきよげなるちごのあたりに物しける時、心のうつる事をたしかにおぼへぬれば、まよひといふ事をよくしり侍りぬ。

いときよらなる女のあたりにゐて何ともおもはねばさとりといふ事をよくしりぬ。

ある人、本來にまよひもさとりもなきといひしをいまよくおもひあたりぬ。

しんぎやうに、まかはんにやといひしは、身をなくして、萬事に應ずると云事いまよくしりぬ。

修行する人は第一身の業をさると云事、いまよくしりぬ。

修行者は身をいたむると云事、いまよくしりぬ。

天下國家をゝさむる人に佛道おしへよと云事、いまよくしりぬ。
天下國家のぬしはぬしなりと云事、いまよくしりぬ。
時のいたるといたらざると云事、いまよくしりぬ。
むくひのあると云事、いまよくしりぬ。
たとへばわが子におしへていはく、君によくつかへよ、人のあくを云事なかれ、萬事の道を心得よといふばかり也、おろかなる事也、大道にいたる人、人のあくをも善をもいふ事なし、君につかへ、おやに孝をつむ也、萬事をゝきて人は只つねの心をしらせたきもの也、何もなくなれば何をも云事なきもの也、つねに心かしこげなる人は、むねつかへぬるほど人のよしあしをしるによりいはじとおもへど、その心におさへるによりて、猶いひて又言葉をたくみにそへけるにより、大あく人と人をいひなせり、かるがゆへに世の人つゐにまじはるにただしからず、あさましき也。
ある法師、即心即佛をとふ、予いはく、ぜひのほか。ある人、非心非佛をとふ、予いはく、ぜひのほか。是非の外をとふ、予いはく、是非の外。又とふ、一棒をあたふ、かれ心得ず。
山居する人來りて物がたりするを聞ば、なか〳〵世中を見くだして高き事及がたし、ある寺法師、物がたりす、ひきゝ事云にたらず、とかく人のならぬ道なり、あるひはたかし、あるひはひきし、本來無一物をしらず。
ある人、男女のまじはりをいむ、予いはく佛道にあらず、男女はまじはる物也。
ある法師來りて、大道人男女のまじはりにさはらずと云、予云をのがみちにあらざる事いふ事なかれ。
妙心寺ノ關山國師は一則にて悟道ありしに、いま三百そくこさするとはいかやうなる事ぞとゝひし人に、予いはく、あさゆふいゐを食して、その味しる人まれ也、もししる人あらば、くらはざる人なり。
あるゆふぐれにいとさびしくてありしに、かねのひゞきければ、ふとあはれにおもひて、
なれて聞このゆふぐれの鐘の聲も
おもへばいつのわかれとかせん。

世中の無常をおもへば、このゆふぐれもおしむべきもことわりにこそ。

たかき人、いやしき人あつまりて佛をとひしにてをうちて此おとを聞ばひとつ也、などをの〳〵たかきいやしき身にかはりあるとゝへば、さては身をおもへばわかる、身をしらぬときはへだてなしといへり、又予いはく、そのへだてぬ所をしるものはたぞ、あつまりし人のうちに、只獨、今日も又暮に及と云。

わかき法師に善惡同か、不同かとゝひしに、口をうごかんとする時、一棒をあたへて、何の邪正かあるといへば、さとる。

ある經法師さとりは絶てなし、せめてきやうよみて、たすからんとてひろげぬるをひさとりて、其經を以て萬法絶てなき所をしれとて、うてどもしらず。

ある人、身の業とはいかやうなる物ぞとゝひしに、予いはく、そのとふまよひをされ。

あるひんなる人、身の業とてくるしむ、予いはく、そのくるしみをされ。

ある富貴なる人、過去の業をよろこぶ、予いはく、そのよろこびをされ。

萬法を捨て何事かある、いまの世に捨て、捨はてよ、捨てのちすつるものなくなりて、予にとへ。

萬法を捨よといへば、無念無心にして、石かはらなどのごとくになるとおもへり。

萬法のもとを見よといへば、又みるものになる也。

何もなきものはこの身のぬしなるを
何とて人はそれとしらずや。

ある人さとりて山居せしによみてやりける。

おもふまゝに捨て山路に入ぬれど
その身のぬしはもとのぬし也。

ある人さとりて山ふかく入ぬるによみてやりける。

山かぜもさとのあらしも身にしみて
おなじいろなる秋の夕ぐれ。

ざぜんの大事をとひける人に、さするもあしゝ、させぬもあしゝ、あしからぬものをつねにやしないたまへと云やりければ、よみてをこせける。

とゞまるも行もかへるもつねなれば
つねの心のつねだにもなし。

予いはく、如是々々。

ある人につげていはく本來道と云事もなし、ものにまかするばかり也。

道といふことばにそめてまよひけり
本來は只何もなき也。

さても〳〵世のおとろへし事といひし人に何をかのたまふ日月星山河大地むかしにかはらぬ物をとおもひしが、雪もむかしはしろからぬかとうたがひぬるごとく、佛のおしへ孔子のおしへのちがひぬるごとき、そのいひをかせられしことのあきらかさよ、それをことはる人のきたなげさよ、世に人をさゝへぬるもことはり也、諸經にのべをかせられし事、四書にのたまひし事のそのまゝによまば、いかほど有がたからんにのちの人のことはりにこれほどあしからんとは誰かしり侍らん、もし〳〵世人すなをになりて聞事あらば天命のあきらかなる事をしらんか、佛道のありがたき事をしらんか。

第一佛は無一物をおしへて、ある時なむあみだ佛と名をつけ、妙法と名をつけ阿字本不生と名をつけ、禪と名をつけて、本來無一物をいろ〳〵にのべたまひし也。

孔道は天命を性といひ、又大學は明德をあきらかにせよといひ、又知をきはむる事は物にいたるとおしへ玉ひしも本來無一物の事也。

ちきにいはば人は只本來何の心もなければ生死もなし、邪正是非をはなれて、しかもはなれず、わが身なければおもひなし、おもひなければわざはひなし、わが身なければ君につかへて忠をつくし、おやにつかへて孝、身あれば念あり、念あればねがひあり、ねがひあれば苦あり、かくのごとくあきらかにしれし道をゝのがさま〳〵いひなして、佛道は佛道のうちにてあらそひ、儒は儒のうちにて佛をしかり、をのれ〳〵をたてしかなしさよ、又かくいへば是をあらそふといふ人あり、何とも堪がたき人の心のおそろしや、かうやうの事を世のすへといひしを

しらざればことはり也。

此一卷わが弟子あたりちかくありしに書てあたへていはく、かならず後世をねがふ人は、いろ〳〵心にくるしみあり、ぢきに佛をしる人はねがひなし、これをよくしるべし、無我の我を以て人に教れども有我の我を以て聞人はしらず、かうやうの人はじひをあたへる事なかれ。

聞人には第一見性をさせて、ざぜんしてつとめさせよ、つとめにしたがひて、たしかになる事うたがひなし。

寛文六丙午神無月日

孚仙にをくる

至道菴主

大正四年二月八日印刷
大正四年二月十一日發行

無難禪師法語奥附
定價金五拾錢

編纂者兼發行者　東京市神田區錦倉町三番地　小谷保太郎
印刷者　東京市京橋區築地二丁目五番地　鈴崎芳次郎
印刷所　東京市京橋區築地二丁目五番地　臺紙開舍

發行所　東京市神田區錦倉町三　振替東京一一八四四番　政教社

不許複製

188.84
M917m
00245228

亀田文庫

4
m